

女性向けがん検診啓発事業の実施

発表者所属 疾病・感染症対策室がん対策班
職・氏名 ○主事 森川 聡子

Key words: 子宮頸がん検診啓発, 女性向け, 美と健康

I はじめに

「がん」という病は、今や2人に1人がかかり3人に1人が亡くなる病となっています。昔は「不治の病」として恐れられていた「がん」ですが、医療技術の発展により早期に発見できれば治すことのできる病気です。「がん」を早期に発見し、「がん」で亡くなる方を少しでも減らすために「がん検診」は行われます。しかし、我が国では、欧米諸国などの先進国に比べがん検診率が低く、特に若年層から検診の対象となっている子宮頸がん検診においては若年層の検診率がとても低くなっており、当県においてもこの現象は例外ではなく、市町村で行われている子宮頸がん検診の20代の受診率は17.26%となっており、30代の受診率である41.70%より5割以上低くなっており（平成25年度宮城県精度管理調査）。子宮頸がんの原因は性行為で感染するウイルスであり、セクシャルデビューの早い現代では子宮頸がんの発症が20代から増え始めており、他のがんに比べ、子宮頸がんは若い世代に増えてきているがんといえます。

子宮頸がんを早期に発見できなければ、赤ちゃんを育てる子宮を切除しなければならなくなったり、死に至る可能性もあります。若い世代に定着しているとは言い難い子宮頸がんに関する知識をより多くの女性に知ってもらい、子宮頸がんによって出産という夢や人生そのものを失う女性を減らすことを目的として女性向けのがん検診啓発事業を実施しました。

II 活動内容

「美と健康」をテーマにした1部1時間程度の3部構成のトークイベントの実施。

(1) 開催場所

イオンモール富谷2階南側催事場

(2) イベント内容

別添資料のとおり。

(3) 集客数

各部20~30名、合計60名程度（その他立ち見客もいた）

(4) イベントを開催するにあたって工夫・注意した点

若年層女性を対象としていたためいかにイベントに興味をもってもらえるか、飽きさせずに聴いてもらえるかを考え、がん検診の講演に加えて美と健康を意識した構成内容とした。また、講演を最後まで聴いてもらえるようにイベント参加者に各部の最後に検診啓発グッズなどのプレゼントを用意した。

なお、イベントの内容を掲載した冊子を作成し、配付予定。

III 考察

(1) 評価できる点

○がん検診に関する講演だけでなく、食に関する講演やジムインストラクターによる簡単な体操、イベント対象世代の女性で構成されたチアリーダーのパフォーマンスを取り入れたことが集客に良い影響を及ぼした。

○来場者にプレゼントを用意し各部の最後に配付としたことで、会場に留めさせることができた。

○エクササイズなどの参加型の企画を取り入れたことで来場者が退屈せずにイベントに参加できた。

(2) 反省点

○賑わった雰囲気を途切れないように上手く繋げ、来場者にそのまま会場に留まってもらえるような流れの作り方が必要。

○来場者の中には比較的高齢の方も多く、また、子育て世代の女性が多くもっと若い世代が集まるような

場所、時間を検討すべきと感じた。

IV 結論

若年女性の集客が非常に難しいことから、もっと女性が興味を引く内容を検討する必要がある。一方で、興味を引くことに囚われてがん検診の啓発という内容からあまりにも乖離してしまわないよう、集客力を重視した構成を考えるべきだと感じたイベントであった。

今後は、「自分に関係ない」という意識を変えさせるような企画内容とし、また、若年女性の興味を引くきっかけとして、メディアや著名人を取り入れることが必要であると感じた。